信州農業“刷新”戦略　概要

○　策定趣旨

・担い手が減少する中、将来に渡り農畜産物を持続的に生産できる農業を実現するとともに、農村の豊かな暮らしを維持するため、県全体で取り組むべき方向性を戦略として取りまとめる

○　危機感

策定された地域計画の分析から、将来の担い手が不足し、食料生産と地域の農村コミュニティーの維持が困難となる恐れ

○　目指す姿

・法人等の持続可能な経営体が主体の稼げる農業が展開され、雇用を生み出すなど地域が活性化している
・稼ぐための農地が明確になり、農業用水や生産基盤が確保され、使いやすく生まれ変わった農地が担い手に集まる
・地域が求める新規就農者や企業が次々と参入し、地域に定着している
・農村の暮らしに重要な役割を果たしている農地が明確になり、地域の合意の下に守られている

○　取組の方向性（刷新の３S）

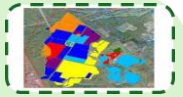
【Shift(転換)】


～担い手構造 の 刷新～

法人・企業が地域農業をけん引

「個人経営中心の農業」から「法人が支える農業」へ

◆経営力と収益力を備えた稼げる農業法人を育成・創出
◆フードテック企業等地域を担う企業の戦略的誘致
◆雇用を生み、支える農業経営の実現

【Select(選抜)】


～農地基盤 の 刷新～

農地の果たす役割の明確化と重点化

「一律的な維持・活用」から「役割に応じた重点投資」へ

◆「稼ぐための農地」と「地域活用のための農地」の峻別
◆「稼ぐための農地」を確実に未来につなぐ仕組みの構築
◆「稼ぐための農地」への集中投資
◆豊かな農村の暮らしを育む農地の維持と活用

【Settle(定着)】


～受入基盤 の 刷新～

「日本一就農・定着しやすい」県の実現

「待ちの就農支援体制」から「地域が呼び込み、育て、定着を支える日本一の仕組み」へ

◆産地の強化に必要な担い手の受入体制の整備
◆人と農地を最適に活用する地域マネジメント体制の構築

信州農業”刷新”戦略における取組例

○　刷新の３Ｓ

【Shift(転換)】


～担い手構造 の 刷新～

法人・企業が地域農業をけん引

「個人経営中心の農業」から「法人が支える農業」へ

◆経営力と収益力を備えた稼げる農業法人を育成・創出

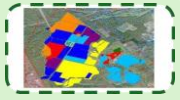
ワンストップ支援体制により、農業経営の法人化・高度化を推進するとともに、販路開拓や事業承継への支援を強化し、収益力向上や規模拡大を実現する持続可能な経営体を育成し、「生産する農業」から「稼ぐ農業」へ転換

◆フードテック企業等地域を担う企業の戦略的に誘致

「農地カルテ」を活用した企業と地域のマッチングを推進し、フードテック企業等の誘致を進め、農業参入から地域定着までを関係機関と連携して一体的に支援

◆雇用を生み、支える農業経営の実現

農業法人における正規雇用の創出と人材育成を促進するとともに、働きやすい環境整備を進め、将来の経営人材の育成から独立就農までを切れ目なく支援

【Select(選抜)】


～農地基盤 の 刷新～

農地の果たす役割の明確化と重点化

「一律的な維持・活用」から役割に応じた重点投資」へ

◆「稼ぐための農地」と「地域活用のための農地」の峻別

担い手に集積・集約して稼ぐ農業を続けていく農地を、地域の話し合いを通じて明確化・見える化

◆「稼ぐための農地」を確実に未来につなぐ仕組みの構築

担い手検討中の農地の一時管理体制の構築、担い手の受け皿能力の強化に向けた規模拡大や経営発展支援

◆「稼ぐための農地」への集中投資

法人・企業等の担い手が求めるほ場の区画拡大や、スマート農業に対応した基盤整備を迅速かつ重点的に実施

◆豊かな農村の暮らしを育む農地の維持と活用

豊かで安全な農村の暮らしに重要な機能を発揮する農地を維持し、「住み続けたい」と感じられる農村環境を実現

【Settle(定着)】


～受入基盤 の 刷新～

「日本一就農・定着しやすい」県の実現

「待ちの就農支援体制」から「地域が呼び込み、育て、定着を支える日本一の仕組み」へ

◆産地の強化に必要な担い手の受入体制の整備

確実に担い手を呼び込むため、就農支援情報のトータルサイト「デジタル農活信州」で産地に必要な人材を明確化
優良な農地など経営資源の継承体制の構築や実践型経営農場の整備による濃密指導

◆人と農地を最適に活用する地域マネジメント体制の構築

農業支援サービス事業による分業体制構築や農村人材のリスキリング、移住者など多様なスキルを持つ人材の育成と定着を推進